



講座案内

第6講 宗教、その現代的意義

(主題・21世紀の人間像)

講師 中原 眞澄 教授 (盛岡市・内丸教会牧師)

日時・5月19日(土) 13:30~16:00

会場・いわて県民情報交流センター「アイーナ」501B

聴講料・100円

【講師からのメッセージ】

宗教、その現代的意義 ~もし、未だにあるとしたら~

中原 眞澄



19世紀最後の1900年に亡くなった哲学者ニーチェが発した言葉として最も有名かつ衝撃的だったのが「神は死んだ」だったでしょう。それ以来「神」を掲げる宗教の優位性は、ヨーロッパの中で、また文明社会の中で、下がりつづけて来ました。いずれは科学の進歩があらゆる人間の問題を解決するようになり、その時には最早、宗教は人間に無用なものとなっているだろう~そんな予想が声高に語られるようになりました。

この日本は・・・と言えば、西欧的「神」の〈死〉以前に、宗教が、社会的道具だとしてではなく、人間の実存に関わるものとして、人々にとって意義と役割を持っていたのは、ごく限られた時期や範囲だったように思えます。そうした中で近代化が始まると、日本の宗教は、人々の〈生〉にとって意義うすいままに、世俗化の波に吞まれてきたように思えます。

しかし、そうした日本もふくめ、宗教の〈死〉を予告した20世紀の大方の予想と逆に(共産主義という疑似宗教の敗北を契機に)、20世紀最

後の10年以降、むしろ世界は宗教の逆襲に遭っているようにも見えます。即ち、宗教・宗派を理由とする争いが世界のあちこちで勃発し、それはあたかも「神」の名による殺戮・殺害を正当化した中世の悪夢(十字軍・異端審問・魔女狩り)が蘇ったかのように思えます。それ故に現在、良識ある人々の間で、宗教無用論あるいは宗教弊害論さえ語られるようになっていきます。

けれども同時に、科学、とりわけIT技術や交通手段の急激な進歩によるグローバル化(世界の一体化)が急激に進展する中、貧富の差と社会の分断は拡大し、既存の枠組を根底から危うくし始めていることも確かです。科学技術の急激な発展は、これまでの常識を超えた、生命倫理上また環境倫理上の重大かつ喫緊の課題を提起しています。既存の倫理や価値観では処理しきれないこうした課題に関し、宗教の持つ本来的意義が再び認識され始めていることも確かなことです。

私の貧弱な知識では、こうした課題の全てを論じることはできません。しかし、こうした課題に立ち向かうための基本的〈姿勢〉や〈視点〉について、ともに語り合い、共通の理解を形成していくキッカケになれば・・・と考えています。

(主題・人間の経済学)

講師 下村次弘 教授 (岩手県原爆被害者団体協議会事務局長)

日時・6月16日(土) 13:30~16:00

会場・日本キリスト教団・内丸教会

聴講料・100円

下村さんは矢巾町に住む被爆2世。非核の願いを語っていただきます。

講演に先立ち、「NHKの番組」を視聴します。



NHK「明日世界が終わるとしても『核なき世界へ ことばを探す サーロー節子』

☆13歳のとき広島で被爆したサーローさん。結婚してカナダに移住したあとも核廃絶を訴えてきた。原爆によるすさまじい爆風によって大勢の同級生と共に建物の下敷きになった。火の手が迫る中、同級生は炎に飲み込まれ、次々に命を落としていった。

☆ノーベル平和賞受賞スピーチにあたり、被爆した時の悲惨な記憶を呼び起こし、伝えなければと思った。

☆今、核兵器禁止条約こそが私たちの光。諦めるな、頑張れ。光を目指して進み続けなさい。これは私たちの情熱であり、誓いなのです。

事務局だより 現代の課題を軸にすえて講座を編成します

第1分野	人間の経済学	貧困格差などを生む現代社会の現実を直視する
第2分野	〈いのち〉の諸相	〈いのち〉を取り巻く生命倫理や尊厳死を考える
第3分野	21世紀の人間像	戦争と暴力、拡大・内向する差別、宗教とは…
第4分野	「環境」の現在	汚染される環境、食料生産の現場、〈フクシマ〉の現実

初年度は各分野をローテーションで取り上げます。「岩手に生きる」ということを根底に据えて課題を掘り起こしていきます。ご聴講の皆さま、お知恵を貸して下さい。(担当理事・丸田)

人間の復興大学事務局 学長 山口和彦 事務局長 亀山助正

盛岡市東仙北2丁目2-45 岩手真宗会館内 電話;019-635-9161 FAX;019-656-8882